

# 取扱説明書

(一般用自転車及び幼児用自転車)

## ⚠ 警告:必ずお読み下さい。

『品質保証及び自転車点検チェックリスト付きですので大切に保管して下さい。』

- 取扱説明書はお求めの自転車を安全で快適にご使用頂くためご使用前に必ず読み、内容を理解したうえでご使用下さい。
- 取扱説明書は必要に応じてご活用頂けるように取出しやすい場所に保管してください。
- 品質保証書にはお買い上げ販売店名の記入、捺印及び購入日と車体番号などの必要記入事項の漏れが無いことを確認してください。

<保護者の方へ>

⚠ 警告: お子様が使用する場合は保護者の方が必ずお読み頂いて、正しい乗り方や使用上の注意事項をよく指導してください。

FOR YOUR SAFETY AND COMFORT, IF YOU ARE ALIEN WHO LIVE IN JAPAN, PLEASE ASK SOMEONE WHO UNDERSTAND THIS MANUAL TO MAKE DETAILED EXPLANATION FOR YOU.



※この取扱説明書を無断で転載・複製することを固く禁じます。

お買い上げありがとうございます。お求めいただいた自転車の性能を十分に引き出していくまでも安全にお乗りいただくために、自転車の正しい理解とご使用が必要です。ご使用を誤りますと大きい事故につながりかねません。お乗りになる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき正しいご理解とご使用をお願いいたします。また、お買い求めになった自転車に該当しない説明内容も含まれていますのでご容赦ください。

お買い上げいただいた自転車は当社の厳重な品質管理の下で生産されています。しかし、輸送中の振動等で製品に緩み等が生じる恐れがあります。販売店で自転車をお受け取りになるときには各箇所点検してあることを確認してください。

## <目 次>

1、警告表示	2ページ
2、各部の名称	3～5ページ
3、正しい使用条件 幼児用座席の取付	6～7ページ 8ページ
4、安全上のご注意 前車輪ロックに注意	9～14ページ 15ページ
5、点検方法	16～18ページ
6、各部の調整方法	19～22ページ
7、正しい取り扱い	23～27ページ
8、お手入れと保管について	28～30ページ
9、交通ルールを覚えましょう	31ページ
※ 定期点検・整備チェックリスト	32ページ
※ 品質保証規定	33ページ

## 1、警告表示

ここに示した注意項目は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意項目は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱をすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」、「禁止」、「強制」の4つに区分しています。

いずれも、安全上に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

### 警告表示について



#### 警 告

- ・取扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。



#### 注 意

- ・取扱いを誤った時に使用者が、傷害を負う危険が想定されるとき及び、物的損害のみの発生が想定されるもの。



#### 禁 止

- ・危険の程度とは関係無く、道路交通法等で禁止されている行為（荷台等に二人乗りなどをしない）又は、当自転車のしてはいけない行為。



#### 強 制

- ・使用者に必ず実行していただきたいこと。



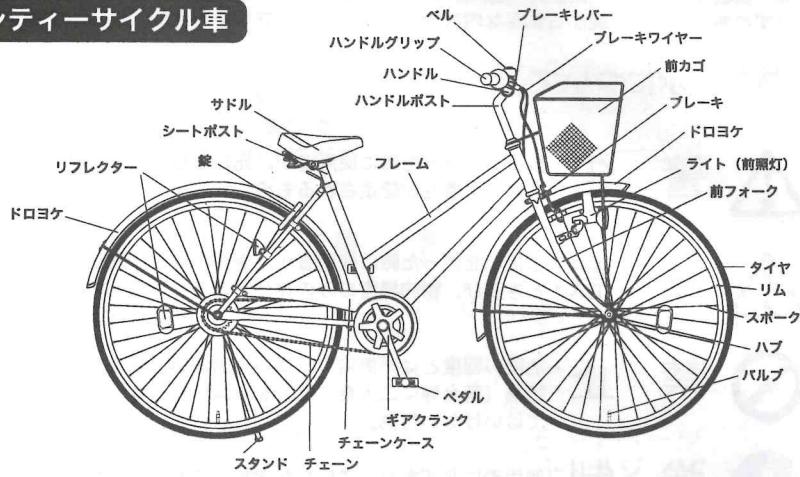
- 安全で快適にご使用いただくために、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解してからご使用ください。
- まちがった取扱や調整は事故につながる危険があります。警告、禁止、注意、強制事項を必ずお守りください。
- 乗車直前の「日常点検」と販売店にお願いする「2ヶ月以内」、「1年ごと」の定期点検は必ず実施をしてください。
- 幼児用座席をご使用になる時は使用する時の条件に従ってご使用ください。  
(使用になられる時は8ページをお読みください。)
- マウンテンバイク類型車には自転車に使用上の注意事項が貼付されていますので、よく読んでからご使用ください。（一般道路以外での使用を禁止する旨の注意事項。）
- 取扱いがわからない時にはお買い求めの販売店にご相談ください。

## 2、各部の名称

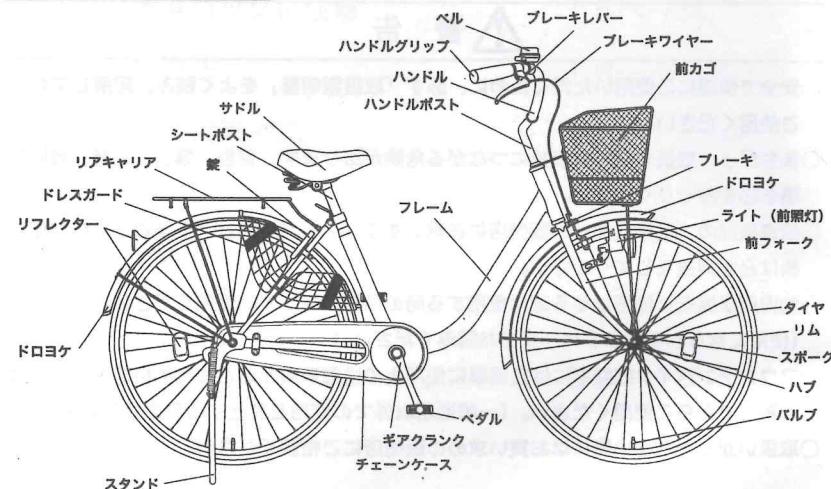
○図で説明する自転車は各車種の一般的な仕様です。お客様がお求めになられた商品とは一部異なる場合があります。

※ここで説明する自転車は一般道路用の自転車です。凸凹の激しいオフロードは走行できません。詳しくは、販売店でおたずね下さい。

### シティーサイクル車

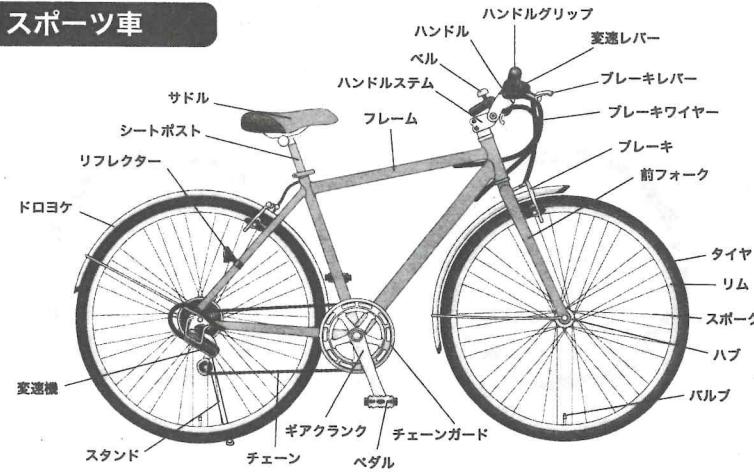


### 軽快車

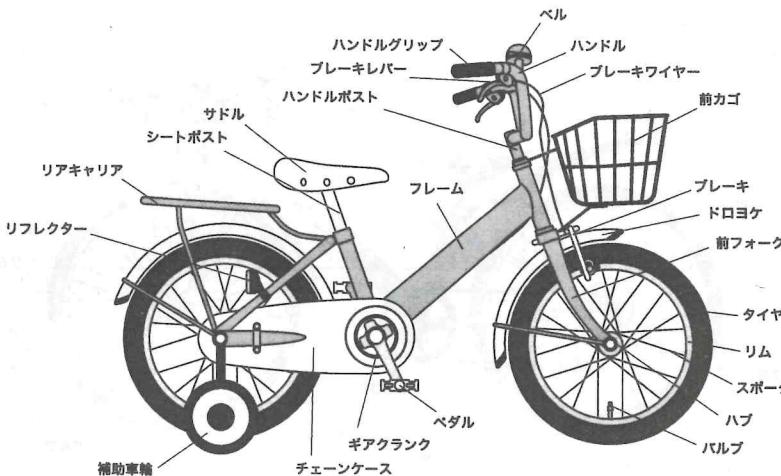


## 2、各部の名称

### スポーツ車

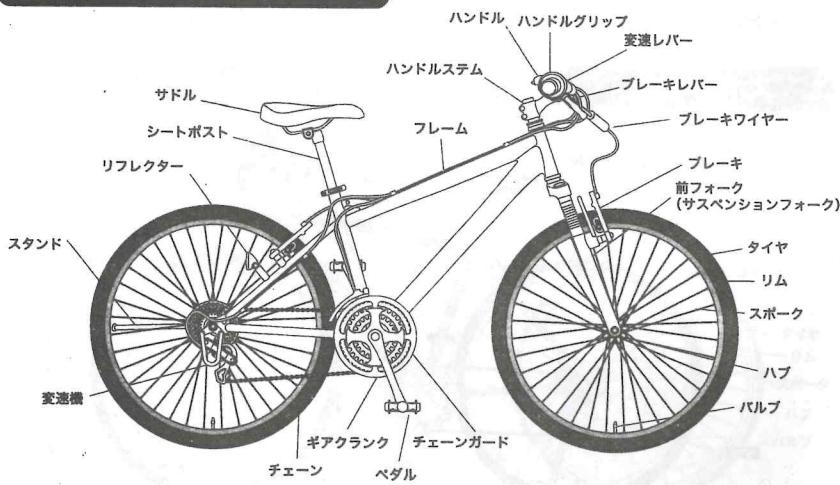


### 子供・幼児車

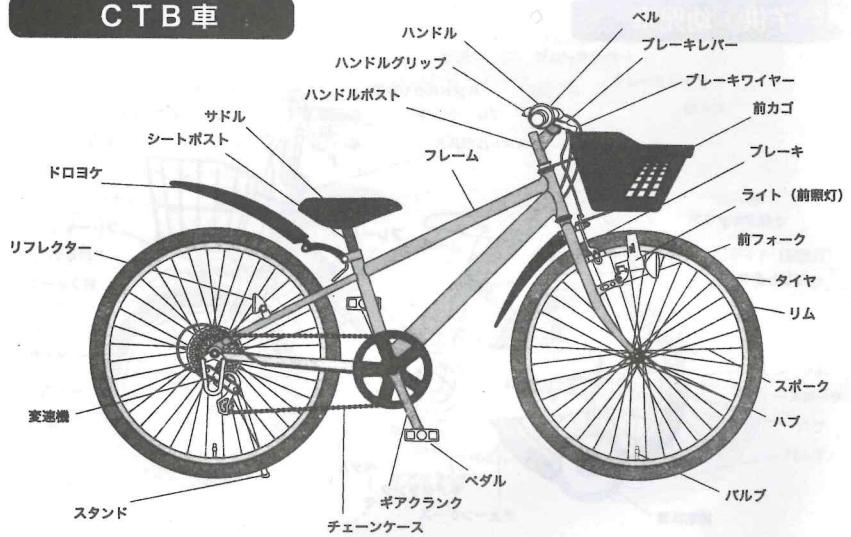


## 2、各部の名称

### スポーツ車マウンテンルック



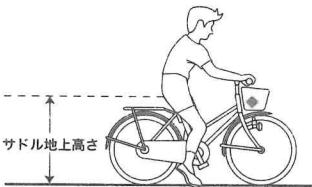
### CTB車



## 3、正しい使用条件

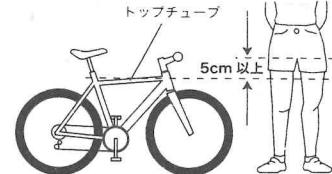
### ○標準適応身長

体に合った自転車を選びましょう。自転車は体に合ったものが安全です。身長に合った自転車の調整は、サドルにまたがり両足先が地面につくように調整することが適当です。サドルの高さを調整しても両足先が地面につかないものや、足が余るようなものは正しい調整とはいません。表を参考にサドル高さの調整目安にしてください。わからない時は販売店にご相談ください。



### ※シティーサイクル・軽快車の目安

サドル地上高さ(cm)	適正身長(cm)
70	140
75	150
80	160
85	170
90	180



### ○正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢が取れるように、ハンドルとサドルの高さを乗車する人に合わせてください。疲れず、安全に乗るには、無理のない乗車姿勢が基本です。サドルに座り、両足をペダル、両手をハンドルグリップにおいて次の操作ができるようにしてください。

1. ペダルの駆動操作が円滑にできる。
2. ブレーキの制動操作が円滑にできる。
3. ハンドルの操縦操作が円滑にできる。

以上のようにサドル、ハンドルの位置を適正に調整してください。

### 車種別の常用速度と標準積載量

一般用自転車及び幼児用自転車の諸元は下記のとおりです。但し、車重及び使用条件は参考値です。

車種	スポーツ車	シティーカー	実用車	コンパクト車	子供車	幼児車
サドルの最大高さmm	635を超える 1100以下	750を超える 1100以下	635を超える 1100以下	635を超える 850以下	435を超える 635以下	
自転車の長さmm		1900以下		1600以下		950~1350
自転車の幅mm		600以下				350~550
ブレーキレバーの開き <sup>5</sup> mm		100以下			85以下	60以下
車輪の径の呼び <sup>1</sup>	20以上28以下		20以下	24以下	18以下	
車重 <sup>2</sup> (重量)kg	10~18	10~20	22~24	8~18	13~18	13~15
積載荷重 <sup>3</sup> (質量)kg	10	15	30	10	5	
常用速度km/h	15~24	10~15	12	10~15	8~18	5~8
乗員体重 <sup>4</sup> (質量)kg			65		40	20

注1) 折りたたみ式のスポーツ車及びシティーカーでは、車輪の径の呼びが20未満のものでよい。

注2) 車重は、その自転車の標準仕様による重量を示す。

注3) 積載荷重は、その自転車の積載装置に対する望ましい許容質量を示す。

注4) 乗員体重は、その車種を設計する上の乗員の標準的な体重を示す。

注5) 幼児車のブレーキレバーの開きは、60mm以下に調整できるものでよい。

備考: サドル最大高さは、乗用できる自転車の状態で、直立させた自転車のシートポストを、はめ合わせ限界標識まで上げたときの地面上からサドル座面中央までの高さです。

### 3、正しい使用条件

#### ○最大積載質量

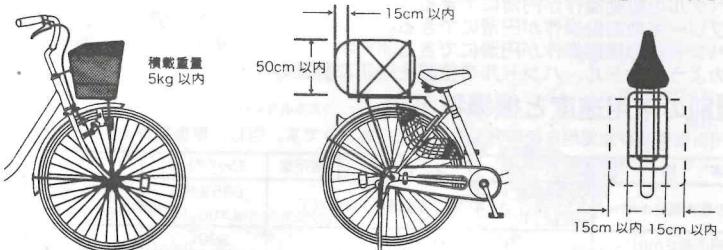
リアキャリアの最大積載質量は、キャリアに表示された質量クラスにより決められています。荷物を乗せる時は、重量、大きさを守り、ズレたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。また、荷物がブレーキワイパーに引っ掛かったり、ヘッドライト、テールランプなどがかくれないようにしてください。

#### ○後キャリアの質量別クラス（一般用自転車規格）

質量別クラス	
クラス10	最大積載質量10kgの積載用キャリアをいう。 なお、このキャリアには、幼児用座席を取付けてはならない。
クラス18	最大積載質量18kgの積載用キャリアをいう。 なお、このキャリアには、幼児用座席を取付けてはならない。
クラス25	最大積載質量25kgの積載用キャリアをいう。 なお、このキャリアに幼児用座席を取付ける場合は、幼児用座席との質量とその幼児用座席が指定する最大適用体重との合計が25kg以下でなければならぬ。
クラス27	最大積載質量27kgの積載用キャリアをいう。 なお、このキャリアに幼児用座席を取付ける場合は、幼児用座席との質量とその幼児用座席が指定する最大適用体重との合計が27kg以下でなければならぬ。
クラスS	最大積載質量が27kg以上の場合は、キャリアの製造業者が最大積載質量を指定する。 なお、このキャリアに幼児用座席を取付ける場合は、幼児用座席との質量とその幼児用座席が指定する最大適用体重との合計が27kg以下でなければならぬ。

**△ 注意:** クラス 10、18、25、27 のキャリアの許容積載質量は、自転車の許容積載質量とする。

**△ 注意:** 荷物を積載する時は図の事を必ずお守り下さい。また、最大積載質量は各都道府県公安委員会の規則により数値が異なるので注意してください。



**△ 注意:** 質量クラスを超える荷物は絶対に積まないでください。幼児用座席を取付ける際には、質量クラスを必ず確認ください。

**△ 注意:** 意: 自転車に装着可能なりアキャリアの質量クラスは自転車に表示されています。必ず表示されている質量クラスを装着してください。

**△ 注意:** 意: 前カゴに荷物を乗せる場合は 5kg 以下。(子供車 2kg 以下)

**△ 注意:** 意: 幼児車には荷物をつまないでください。

**△ 注意:** 意: 前カゴ、後キャリア以外の箇所に荷物を積まないでください。

**○ 禁止:** 最大積載量を超える荷物を積載すると自転車の安定性を損なう為に、絶対に積まないでください。

**○ 禁止:** 大きな質量クラスのキャリアを取付けても、その自転車の最大積載質量を超えて積載しないでください。

### 3、正しい使用条件

#### ○幼児用座席の使用上の注意。

**○ 禁止:** 販売店にて幼児用座席が取付けられるかを確認してください。また、一般自転車には取付けられる幼児用座席は 1 つに限られています。

自転車のリアキャリアに後用幼児座席を取り付けて幼児を乗車させる時には、リアキャリの最大積載質量の表示および自転車への後幼児用座席の取付けの可否を必ず確認してからご使用ください。

#### ○幼児用座席取付け上の注意

● 1本スタンドの自転車には幼児用座席は取付けられません。必ず、ロック付の両立スタンドをご使用ください。

● 自転車に後用幼児座席を取付ける場合はクラス 25 以上のリアキャリアとそのリアキャリアに対応した自転車に取付けすることができます。

● 後幼児用座席を取付ける場合は、自転車、リアキャリア、幼児用座席の取扱説明書の指示に従って取付けてください。

● 後幼児用座席の質量とその幼児用座席が指定する最大適用体重との合計がリアキャリアの最大積載質量以下でなければなりません。

● 幼児用座席を取付けるときはお子様の足部安全の為、必ずドレスガードと併用をしてください。自転車にドレスガードの付いていない自転車には必ずドレスガードを取付けてください。

● 後用幼児座席は、幼児が足を巻き込まれない位置に防護カバーの付いた幼児用座席を必ずご使用ください。

● 転倒による事故の危険性があるため、シートベルトの使用とヘルメットの着用をさせてください。

● 幼児用座席及び後キャリアの取付は販売店におまかせてください。  
● 詳しくは販売店にご相談ください。

#### ○幼児を乗せる時の注意

● お子様の安全にとくにご注意ください。

● 乗車前に幼児用座席がリアキャリアに確実に固定され、破損や変形、傷などがないかを必ず安全確認を行ってください。リアキャリアの振れ幅が大きい、きしみ音がするなど異常を感じたら乗車させないでください。

● 安全確保のためにお子様を乗せる時には必ずシートベルトをご使用ください。

● 安全確保のためにお子様を乗せる時には必ず幼児用ヘルメットをご使用ください。

● お子様の乗せ降ろしの際には、平坦な場所を選び、必ずお子様を抱いて行ってください。また、スタンダードがロックされていることを確認してください。

● お子様を乗せたまま駐輪しないでください。転倒してケガのおそれがありますので、必ずお子様を降ろしてください。

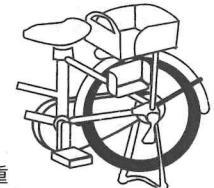
● 幼児座席に乗れるお子様の年齢・体重等については各都道府県の条例によって異なりますので販売店にご相談ください。

**△ 警告:** お子様を乗せたまま自転車を離れないでください。  
お子様を乗せたまま駐輪をしないでください。

**△ 警告:** 幼児用座席にお子様を乗せる時には必ずシートベルトを着用させてください。自転車に幼児座席を取り付け幼児を同乗させることにより、自転車のハンドル操作や走行安定性を損なうおそれがありますので十分に注意してください。

**△ 警告:** ドル操作や走行安定性を損なうおそれがありますので十分に注意してください。また、制動操作時に制動距離が長くなりますので注意してください。

**△ 警告:** 幼児用座席にお子様を乗せて使用中、お子様の手足が届く範囲に自転車錠がある場合は、錠が作動する場合がありますので、その位置には充分注意してください。

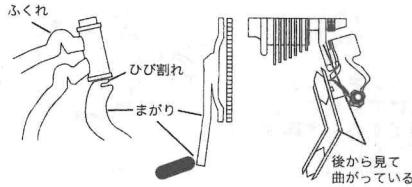


## 4. 安全上のご注意

○お使いになる人や他の人への危害、財産の損害と自転車がこわれることを未然に防止するため、必ずお守りください。  
また、自転車に貼られた警告シールははがさないでください。

**⚠ 警 告:** 危険です。乗車直前に必ず点検してください。

- フレーム、前フォークやクランク、ペダルなどの部品に変形やひび割れはないか。



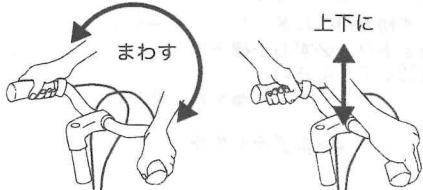
**❗ 強 制:**求めの販売店で必ず交換、修理をするようにしてください。

**🚫 禁 止:**曲がりを直しての再使用は絶対にしないでください。破損によるケガの恐れがあります。

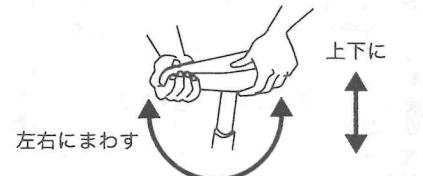
●ハンドルやサドルはしっかりと固定されているか。

操縦できなくなり、事故・ケガのおそれがあります。

○ハンドルがうごかないか？また、前輪に対して直角に取り付いているか？



○サドルがうごかないか？また、フレームとまっすぐに取付けているか？



- ハンドルやサドルのポストは限界標識がかかるまで差し込まれているか。  
ハンドル、サドル（ポスト）の折れや抜けによる事故・ケガのおそれがあります。

●車輪はしっかりと固定されているか。  
自転車を持ち上げて、タイヤを上から強く叩いたとき、車輪がしっかりと固定されているかどうか。

○クイックリースハブの場合は。  
特にクイックリースを使用している自転車はレバーの位置を確認してください。走行中に外れる事故・ケガをおこすおそれがあり危険です。

●ブレーキはよくきますか。  
左右のブレーキレバーを握って操作したときに、ブレーキレバーとグリップとの間が $1/2\sim1/3$ になるまでにブレーキが効きますか。

また、ブレーキレバーの取付けのゆるみやガタが無いかどうか確認をしてください。ブレーキレバーの作動には特に注意しワイヤーのサビ、折れ曲がりがないか。サビや折れ曲がりがあると、ブレーキレバーの動作が重かったり、ブレーキが効かないことがあります。

○お子様が乗られる場合にはブレーキレバーに指がとどいているかどうか確認をしてください。また、ブレーキのかけかたを繰返し教えてください。

●各部のネジはゆるんでいませんか。  
自転車を前車輪と後車輪を別々に持ち上げて（約10cm～20cm）軽く落としてみて異音や取付のズレがないか。異音がある場合は、ネジやナットがゆるんでいる可能性があります。

## 4. 安全上のご注意

- 安全な服装で乗車しましょう。

幅広いズボン、長いスカート等は車輪やチャーンに巻き込まれて転倒するおそれがありますので、そのおそれのない服装で走りましょう。

- 児童、幼児にはヘルメットを着用させて下さい。

児童、幼児（13才未満の者）が乗車するときは必ず自転車用ヘルメットを着用させください。また一般の方も乗車する時には自転車用ヘルメットを着用しましょう。

- ライトは点灯しますか。

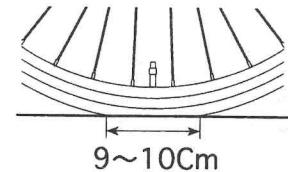
でかける前にはライトが点灯するか回転部分がスムーズに作動するかどうか確認してください。

- ベルは鳴りますか。

でかける前にはベルが鳴るかきちんと固定されているか確認してください。

- タイヤの空気圧は十分ですか。

乗った時に地面との接地面の長さが9～10cmくらいになるのが標準です。空気圧が低すぎるとタイヤの損傷が早くパンクの原因となります。また、車輪の回転が重くなります。

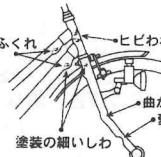


**⚠ 警 告:** 危険です。必ずお守りください。

- 異常がある時は、乗らないでください。

○点検せずに異常のあるまま走行すると事故や転倒によるケガの恐れがあります。  
禁止

**❗ 強制:** 变形、ヒビ割れ ふくれ  
ねじの緩み等、  
異常ある部分は  
即時、必ず交換  
してください。  
塗装の細いわ



曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。  
強制

- サドルやハンドルは、はめ合わせ限界線が見える状態で乗らないでください。

○サドルやハンドルの破損で事故やケガをするおそれがあります。  
禁止



シートポスト及び、ハンドルポストの限界標識線がフレームの中にかくれる状態でお乗りください。

- 突起物装置の禁止

○ハブステップ等歩行者に危害を及ぼすおそれのある突起物を装着しないでください。  
禁止

- 積載条件から外れる荷物を積んでの走行はやめましょう。

○バランスを崩し、転倒による事故やケガの恐れがあります。  
禁止



○幼児車には荷物はつまないでください。  
禁止

- 自転車のダイナモの起動は停車してから手で操作してください。走行中に足で操作するのはやめましょう。

○足が車輪に巻き込まれて転倒による事故・ケガの恐れがあります。  
禁止



ダイナモの手元起動装置のない自転車のだいなも及びバッテリーランプの起動は必ず停車し、手で操作してください。

- 視界の悪い時は乗らないでください。

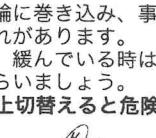
夜間及び雨、濃霧などで見通しが悪い時は危険です。衝突や転倒など事故・ケガをするおそれがあります。  
禁止

## 4. 安全上のご注意

●スポークの間にボール等の固形物を入れないでください。

 禁止 フレームやブレーキなどに接触し事故やケガをするおそれがあります。

●ドロヨケをとめているネジが外れたままの走行は危険ですのでやめましょう。

 禁止 ドロヨケが外れ、車輪に巻き込み、事故やケガをするおそれがあります。ネジが取れたり、緩んでいる時は販売店で取付けてもらいましょう。

●外装変速は一度に2段以上切替えると危険ですのでやめましょう。

 禁止 チェーンが外れ転倒し事故やケガをするおそれがありますので1段づつしてください。

●チェーンや車輪に巻き込まれやすい服装や荷物を持っての走行はやめましょう。

 禁止 車輪やチェーンにスカートの裾や傘などが巻き込まれ事故やケガをするおそれがあります

●路面が滑りやすいところでは乗らないでください。

 禁止 積雪・雨天・凍結した道・工事現場の鉄板やぬかるみなどはスリップして事故やケガをするおそれがあります。降りて押してください。

●並走の禁止。

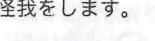
 禁止 二台以上で走行するときは、一列に並んで走行してください。

●二人乗りやアクロバット的な乗り方は危険です！絶対にやめましょう。

 禁止 転倒や落車による事故・ケガをするおそれがあります。二人乗りやアクロバット的な乗り方はやめましょう。

 禁止 二人乗りは禁止  
危険な乗り方は禁止  
ハブステップの取付けは禁止

●車輪に異物が入り込まないように注意して走行のこと。

 禁止 前輪がロックして大怪我をします。

●スポークの間にボール等固形物を入れて走行をしない。

(前車輪がリフレクタ等はのぞく。)

●段差や凸凹の激しいところでの走行は危険ですのでやめましょう。

(歩道の段差、溝など)

 禁止 フレームや車輪が損傷し事故・ケガをするおそれがあります。降りて押してください。

●お酒を飲んだ時は絶対に乗らないでください。

 禁止 転倒や衝突による事故・ケガをするおそれがあります。

●携帯電話や携帯ミュージックプレーヤー等を操作しながら絶対に乗らないでください。

 禁止 転倒や衝突による事故・ケガをするおそれがあります。

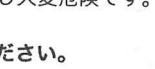
## 4. 安全上のご注意

●ハンドルに荷物を下げたり犬を引いたりまた、強風時の運転はやめましょう。

 禁止 荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスをくずして転倒し、ケガのおそれがあります。

 禁止 荷物はキャリアやバスケットに積ん強制でください。

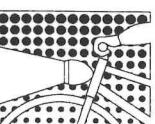
●バスケットにペットを乗せない。

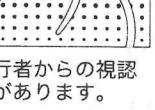
 禁止 ペットが急に飛び出し大変危険です。

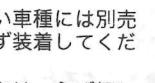
●自転車を改造しないでください。

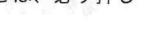
 禁止 部品の破損、はずれなどで事故やケガをするおそれがあります。修理やパーツの取付けは販売店にご相談してください。

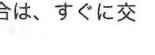
●夜間および薄暗いところでは無灯火で乗らないでください。

 禁止 夜間、及びトンネル内をご乗車の際は必ず、ヘッドライトを点灯してください。ヘッドライトの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車輛や歩行者からの視認をしやすくする効果があります。

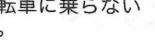
 禁止 夜間、及びトンネル内をご乗車の際は必ず、ヘッドライトを点灯してください。ヘッドライトの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車輛や歩行者からの視認をしやすくする効果があります。

 禁止 ヘッドライトが標準装備されていない車種には別売のヘッドライトを必ず装着してください。

 禁止 ランプがつかないときは、必ず押して歩いてください。

 禁止 ランプが破損した場合は、すぐに交換してください。

●幼児の夜間走行の禁止。

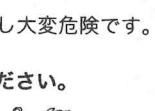
 禁止 幼児には、夜間、自転車に乗らないようにしてください。

●幼児を乗せない。

 禁止 転倒や落車による事故・ケガをするおそれがあります。

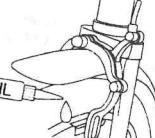
 禁止 幼児用座席の取付可能な自転車については幼児用座席の取付を参照してください。

●自転車を走行以外には使用しないでください。(踏み台代わりなど)

 禁止 転倒による事故・ケガをするおそれがあります。走行以外の用途には使用しないでください。

●未組立及び未調整の自転車を使用しない。

●ブレーキの制動面には注油しないでください。

 禁止 ブレーキに油がつくとブレーキがきかなくななり、事故やケガをするおそれがあります。

●滑りやすい靴やカカトの高い靴などをはいて乗らない。

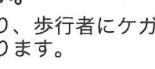
 禁止 足がペダルからハラズし転倒によるケガのおそれがあります。

●片手、手離し運転はやめましょう。また、傘をさしての運転は危険です。

 禁止 危険回避など急な操作ができずに衝突や転倒のおそれがあります。

 禁止 雨の時に傘をさしての片手運転等はしないでください。

●傘やステッキ、釣り竿等を車体に差し込んだり、吊り下げたりしない。

 禁止 車輪をロックさせたり、歩行者にケガをさせるおそれがあります。

## 4. 安全上のご注意

●2ヶ月以内点検、1年点検。

初期のうちは  
ネジがゆるんで  
り調整がズレ  
たりしてきま  
す。必ず点  
検を実施して  
ください。



●交通ルールを守る。

交通ルールを守らないと事故でケガを  
したり、他の人にケガを負わせるおそ  
れがあります。

**警 告:** 危険です。必ずお守りください。

●走行するとき、スタンドを完全に跳ね上げてない状態で乗らない。

カーブのときスタンドが地面と接触し転倒によるケガのおそれがあります。

スタンドを上げるときはロック強制を解除してください。

●走行するとき、カーブではスピードを出さない。

曲がりきれずに思わず事故まねきます。

●走行するとき、カーブではブレーキをかけない。

横すべりを起こし転倒する危険があります。

●走行するとき、カーブでは曲がる側のペダルを下げない。

車体が傾いている側のペダルが下にな  
っていると、ペダルが路面の凸凹や縁  
石等に接触し転倒によるケガのおそれ  
があります。

●乗りなれない自転車を乗るとき及び初心者の方は。

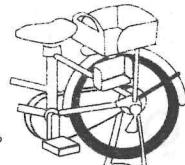
空き地や公園など安全な場所でよく練習してください。

●幼児は幼児用座席を取付けて幼児用座席に乗せる。

使用前に必ず組付け固定状態を確認する。

幼児を乗せる時は必ず靴をはかせる。

●幼児を乗せたら落ちないように常に注意をはらう。



●走行するとき、自動車の横を走り過ぎる時にはスピードをださない。

自動車のドアが急に開き衝突の危険があります。



●走行するとき、自動車のうしろに、続いたり、その前に割り込んだり、車の間をぬって前に出ない。

自動車が急に動いたり、止まったりして衝突の危険があります。

●走行するとき、自動車と並んで走ったり、ジグザク運転をしたり、競争をしない。

自動車と接触し転倒によるケガのおそれがあります。

●走行するとき、傘、バット、ラケット等の長い物を積載する時には充分に注意しましょう。

歩行者に危害を及ぼすおそれのある突出した積載は接触した時に危険です。

●走行するとき、小径車は走行が不安定になりますので充分に注意ください。

車輪径が大きい自転車と比べて走行性能が劣るため不慣れな時は転倒するおそれがあります。

## 4. 安全上のご注意

●雨の日やぬれた道、下り坂ではスピードをださない。

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいために思わぬ事故や転倒によるケガのおそれがあります。特に急な坂道の上り、下りは自転車を降りて押して歩いてください。



●片側ブレーキはかけない。

片手だけのブレーキをかけるとバランスをくずして転倒し、ケガのおそれがあります。

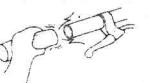


●いつでもブレーキレバーを握るようにして乗る。

走行中は常にブレーキレバーをすぐ握れるようにしてください。ブレーキは先に後ブレーキからかけてから前後ともブレーキをかける。

●グリップのゆるんでいるものには乗らない。

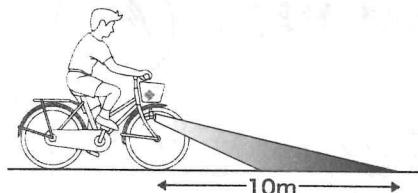
グリップの弾力性が低下して回るものはハンドルから抜けるおそれがあり大変危険です。自転車販売店にて交換してください。



●夜間の使用に関する注意。

前照灯が点灯するか確認をしてください。

前照灯の、照射角度は自転車の前方約10m先の路面を照らす様に調整して取付けてください。



●走行するとき、スピードを出しすぎない。

スピードを出しすぎると、ハンドル操作がむずかしく、ブレーキも効かないになります。事故をまねくおそれがあり危険です。

●急ブレーキをかけない。

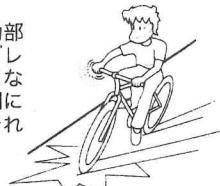
急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。

●走行中ブレーキワイヤーを引っぱったり、曲げたりしない。

急ブレーキがかかった状態になることがあります。転倒するおそれがあるために危険です。

●長い下り坂などでブレーキのかけっぱなしはしない。

ブレーキの制動部が発熱して、ブレーキがぎきくなり、衝突や転倒によるケガのおそれがあります。



●小さなお子様が乗られる場合。

ブレーキレバーに指がとどいているか確認をしてください。また、ブレーキレバーを握る事ができるか確認をしてください。正しいブレーキ操作ができるか確認をしてください。

●リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない。また、取り外して乗らない。

テールランプ及びリフレクターは車両からの確認をする上で大変重要です。必ず取付けてください。汚れや損傷のない状態でご使用ください。

破損した場合はすぐに交換してください。交換するときは橙色または赤色のものを使用し、反射面の傾きは進行方向垂直に対し上下左右5度未満になるようにしっかりと固定してください。

## 4、安全上のご注意

**警 告:** 危険です。必ずお守りください。

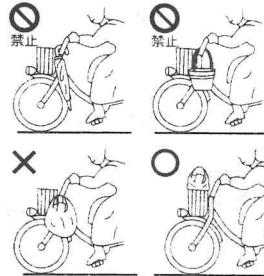
### ●前車輪ロックに注意。

**禁止** 前車輪ロックとは、走行中に前車輪の回転が瞬間に急停止することです。衝突と同じくらいの衝撃があり、前のめりに頭から転倒し大事故につながる可能性があります。前車輪ロックされる原因は以下のような場合が考えられます。

#### 1) 荷物の挟み込みに注意。

走行中に荷物などが前車輪に挟み込まれて瞬間に停止して、前のめりに顔面から転倒して大ケガをするおそれがあります。挟み込まれる荷物は、ハンドルにぶら下げた荷物、肩からかけた荷物、手に持った荷物などです。荷物は前かごや後の荷台にキチンと乗せてください。また、入りきらないときはリュックサック等に入れて背負ってください。

前車輪挟み込み防止ガードを装着している自転車は車輪に接触しないようにしっかりと取付けられているか確認してください。



#### 2) 急ブレーキに注意。

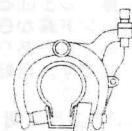
平坦路でスピードを出していたり、下り坂の走行時に前ブレーキだけを強い制動もしくは急ブレーキをかけると瞬間に前車輪が停止をして前のめりに顔面から転倒して大ケガをするおそれがあります。

また、図のような強力な制動力をを持つブレーキ装置はよく効きますので急ブレーキの時は事故が起きやすいので十分に注意してください。また、このようなブレーキ装置に不慣れな時は安全な制動ができるまで練習をしてください。



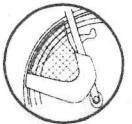
#### 3) ブレーキゴムの位置に注意。

衝突や転倒等で前フォークが曲がった状態でブレーキをかけた時ブレーキゴムがタイヤに接触する位置にあると前車輪が瞬間に停止し、前のめりに顔面から転倒して大ケガをするおそれがあります。前フォークが曲がっている時には乗車せずに修理・交換をしてください。



#### 4) 外部からの異物の巻き込み。

走行中に空き缶や木の枝等などを踏みつけた時に前車輪に挟み込み場合がありますので注意してください。



#### 5) 巻き込み防止防護装置の破損に注意。

前車輪に異物の挟み込みを防止するための防護装置を取り付けたものについては、防護装置が破損した状態では使用は危険ですので絶対にしないでください。

#### 6) その他の動作に注意。

前子供乗せに乗車しているお子様の足が誤って車輪の間にはさまれたり、ダイナモランプを足先で蹴って倒したとき、また、そのダイナモランプが車輪の間にはさみたりした時に前車輪は瞬間に停止し、前のめりに顔面から転倒して大ケガをするおそれがあります。

## 5、点検方法

●乗る前の“点検”と販売店にお願いする“初期点検（2ヶ月以内）”や“定期点検（1年ごと）”は必ず行ってください。また、それ以外でも異常を感じたときは販売店で点検を受けてください。

### ●乗る前の点検。

強制 乗車するまえに必ず点検し、安全を確認してから乗ってください。

### ●初期点検（2ヶ月以内）。

強制 初期のうちはネジがゆるんだり調整がズレたりしてきます。必ず点検を実施してください。

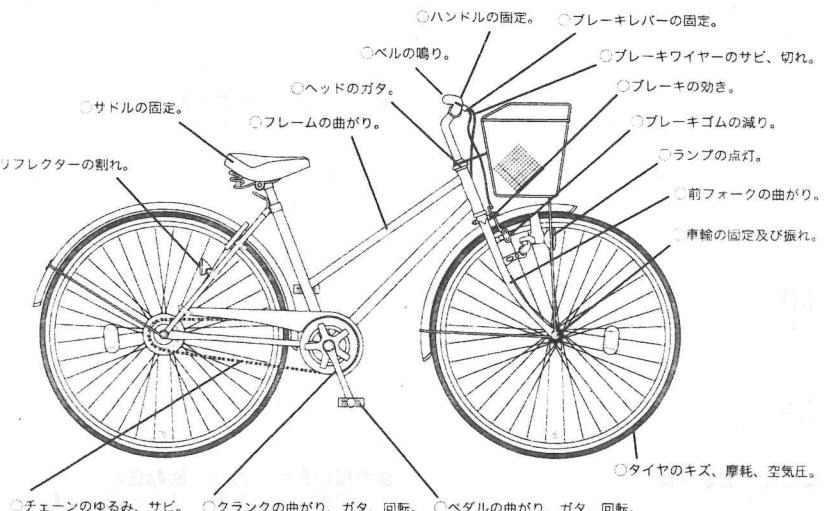
### ●定期点検（1年ごと）。

強制 1年ごとに定期点検を実施してください。また、異常を感じたときも点検を受けてください。自転車を長期間使用をせずに再び使用するときも点検を受けてください。

強制 点検ができないお子様のために必ず保護者が点検を行ってください。

### ●日常点検と調整のポイント

安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。点検及び調整後は試乗をしてください。点検や調整後の試乗時に異常があった時や不明な点は販売店にご相談ください。



**禁止** 絶対に曲げ戻したりして修理をせずにすみやかに正規部品の交換を行ってください。

●フレームや前フォークの変形やヒビ割れがないか。

●ペダル軸やギアクランクに曲がりやヒビ割れ等はないか。

●その他の部品についても変形やヒビ割れ等はないか。

●そのまま変形、曲がり、ヒビ割れの状態でご使用になられると思わぬ事故がおこることがあります。

## 5、点検方法

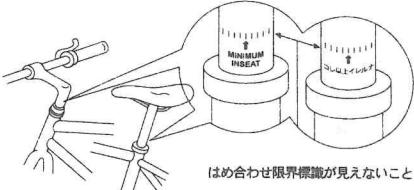
### ●ハンドルとサドルの固定は十分か。

※限界標識がくぐれるまで差し込まれているか。

※ハンドルが車輪に直角に固定されていること。

※サドルがフレーム中心と合っていること。

※サドルに座ってブレーキやハンドルを無理なく操作できること。

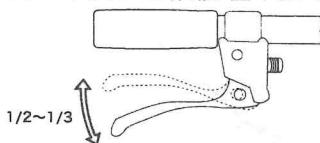


### ●ブレーキのきき具合。

※ブレーキレバーを引いてみてきき具合を確認する。

※すきまが $1/2\sim1/3$ になるまでにブレーキがよくきくこと。

※ブレーキレバーの作動が重くないこと。



**!** ブレーキレバーの遊びが大きい時には強制的に販売店にて点検を受けてください。

**!** ブレーキワイヤー、ブレーキシューは消耗品です。異常がなくとも1年に1回くらい強制的に目安で交換してください。

### ●車輪の固定状態。

※自転車を持ち上げて、タイヤを上から強く叩いたとき、車輪がしっかりと固定されているかどうか。

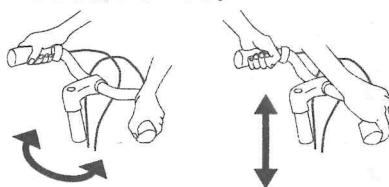
### ●タイヤのキズ・摩耗。

※タイヤに深いキズがないこと。

※接地面のタイヤの模様が十分残っていること。

### ●ハンドルの固定でガタやきしみはないか。

※前輪を足で固定してハンドルを左右に動かしてみる。また、ハンドルを上下にゆさぶり動かないこと。



### ●サドルの固定で上下左右前後にガタはないか。

※サドルの前後をもって前後左右前後に動かしてみる。



### ●ブレーキレバーの固定。

※ブレーキレバーを押して動かないか確認をする。

※ブレーキレバーを押してズレたりしないか確認する。

### ●ブレーキワイヤーのサビや切れ。

※ブレーキワイヤーに切れやサビがないことを確認する。

### ●ブレーキシューの減り。

※ブレーキシューの溝の残りが1mm以上あることを確認する。

### ●車輪の振れ・ガタ・回転性。

※車輪を回した時にスムーズに回転し大きい振れやガタがないこと。

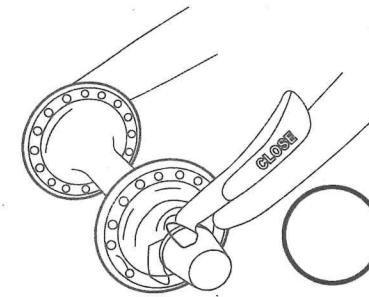
### ●タイヤの空気圧。

※タイヤに記載されている空気圧になっていること。

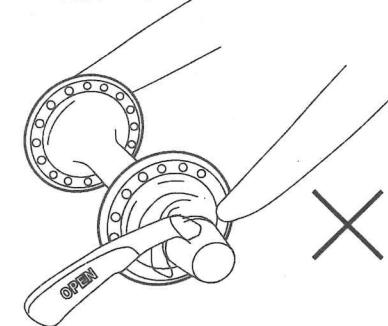
## 5、点検方法

### ●クイックレリーズハブの場合。

※カムレバーの文字が「CLOSE」の文字が見える方向に最後まで閉じられていること。



※カムレバーの文字が途中であったり、「OPEN」の文字が見える方向になっていると固定が弱く車輪が外れるおそれがあり危険です。



### ●ギアランク・内装変速・変速機。

※クランク・ペダルにガタがなくスムーズに変速し、チェーンがロー側、トップ側とも外れないこと。

※後ろから見て変速機が変形していないこと。※ギアランクに変形やひび割れがないこと。

### ●ベル・ブザー。

※ベルまたはブザーが必ず装着されていてよく鳴ること。

### ●リフレクター。

※必ず装着されており、後からよく見えること。

※レンズのよごれや割れがないこと。

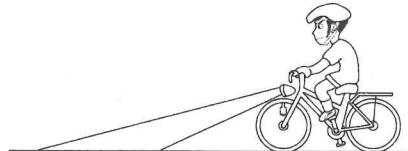
### ●チェーン。

※油切れがなく、指で動かしてみたときにめらかに動くこと。

※チェーンが大きくなっていること。

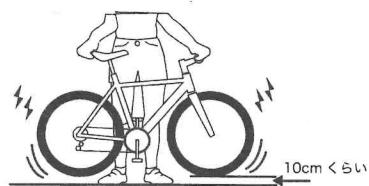
### ●ランプ。

※明るく点灯し、10m前方の路面を照らすことができる。



### ●各部のネジのゆるみ。

※自転車を持ち上げて軽く落とし異音がないか。落とした時に振動がしたらネジが緩んでいる可能性がありますので、点検をしてください。



## 6. 各部の調整方法

●安全確保のためにも、各部の調整は注意点を守って確実に行ってください。これを怠りますとおもむね事故につながります。ご不明な点がありましたら、お買い求めの販売店にご相談ください。また、お子様には調整をさせないでください。

### ●正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢をとるよう、ハンドルとサドルの高さを乗車する人の体格に合わせてください。疲れず、安全に乗るにはサドルに腰をおろし、ペダルを一番下にして足をのせたとき、ひざが軽く曲がる程度の高さが適当です。



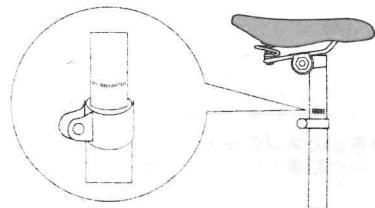
※上半身が少し前に傾き、ヒザが軽く曲がること。

※ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操作ができる

こと。  
※円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、変速レバー、ベル等が安全に操作できること。

### ●サドルの調整

#### ○サドルの高さ調整



**警告** 最も高くした場合でも、シートポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。

はめ合わせ限界標識が見える状態で乗車しないでください。

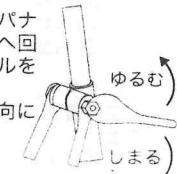
サドルのシートポストが破損してケガのおそれがあります。

### ●調整方法

#### ○シートピン式の場合

シートピンナットをスパナで時計回りと反対方向へ回すと固定がゆるみサドルを上下に調整できます。固定する場合は時計方向に回し締付けます。

締付けトルク：  
14~18N·m (140~180kgf·cm)



### ●調整方法

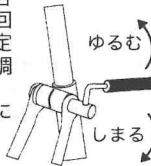
#### ○クイックレバー式シートピンの場合

クイックレバーをゆるむの方向に操作すると、シートポストがゆるみます。固定する場合はクイックレバーをしめるの方向に操作をします。この時にシートポストの固定ができなかったり、途中でレバーが固くなったりする場合は、反対側の調整ナットを回して調整してください。

## 6. 各部の調整方法

### ●調整方法

○レバーシートピン式の場合  
シートピンレバーを時計回りと反対方向へ回すと固定がゆるみサドルを上下に調整できます。固定する場合は時計方向に回し締付けます。



### ●調整方法

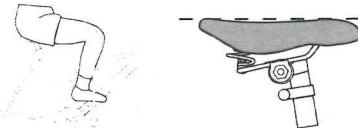
○六角穴式シートピンの場合  
六角棒レンチを時計回りと反対方向へ回すと固定がゆるみサドルを上下に調整できます。固定する場合は時計方向に回し締付けます。



このタイプで左側に回り止めがついているものは回すと破損をしますので絶対に回さないでください。

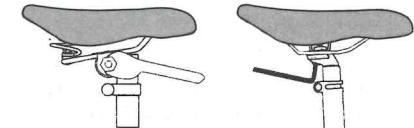
### ●サドルの前後位置

※サドルの前後位置は、ペダルを斜め前の一番力のかかる位置にして足をペダルにのせたときに、ひざの中心から垂線がペダルの中心を通るようにするのが標準です。また、角度はサドル上面がほぼ水平になるように調整してください。



### ●サドルの前後水平調整位置

※サドルの前後位置は、サドル取付ナットをゆるめて調整します。調整後はサドル先端をフレーム中心に合わせてください。また、サドル取付ナットはしっかりと締付けてください。



### ●ハンドルの調整

#### ○ハンドルの高さと角度調整

サドルに腰を降ろして、ハンドルを握ったときに肩や肘に余分な力が入らず、状態がリラックスできるくらいの高さが適当です。ハンドルバーとハンドルポストの取付け角度はハンドルを横から見て、二ギリ部とハンドルポストと直角になるのが標準です。



### ●ハンドルの角度調整方法

○ハンドルバー締付けナット(ボルト)をゆるめてから角度調整をしてください。調整後は必ずナット(ボルト)をしっかりと締付けてください。



**警告** 最も高くした場合でも、ハンドルシステムのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。

はめ合わせ限界標識が見える状態で乗車しないでください。

ハンドルが破損してケガのおそれがあります。

ハンドルの角度や高さを調整した後は必ずしっかりと締まって動かないことを確認してください。

しっかりと締まっていないまま乗車しますとハンドルが動いて転倒をしてケガのおそれがあります。

### ●ハンドルの高さ調整方法

○ハンドルシステムの引上げボルトを緩めます。緩めた引上げボルトの頭に木片などを当てて軽く叩くと固定がゆるみポストは上下に調整できます。



## 6、各部の調整方法

### ●ブレーキの調整

○長い間使用をしていると、ブレーキレバーのあそびが大きくなり、制動力が悪くなってしまいます。常にブレーキが正常に作動するように調整をしてください。

**警告** ブレーキ各部はこの説明書に記載されているところ以外は、絶対に自分で調整をしないでください。

**警告** 記載されている内容がよく理解できない時は販売店にご相談ください。

### ●適切なブレーキレバーの開き

○ブレーキレバーとニギリとの間隔は、ブレーキをかけてない状態で、ニギリを握ったまま2本または3本の指の第一関節でブレーキレバーを巻き込むことのできる幅に調整します。



○ブレーキレバーの角度はサドルに座り、腕を延ばしてその延長線上に沿うようにセットします。

○ブレーキレバーは、強く握ったときでも指が挟まれないようにワイヤーを張っておきます。

### ●ブレーキワイヤーの交換時期。

○ブレーキワイヤーは消耗品です。異常がなくても1年に1回は交換をしてください。また、サビやほつれが見られたらすみやかに交換をしてください。

### ●つぎの場合は販売店にご相談ください。

○アジャスター bolt で調整ができない場合。  
(アジャスター bolt を回してもブレーキの効き具合が改善されない。)

○キャリパー・ブレーキ等で片焼き状態になっている。(どちらかのブレーキシューがリムに当たりっぱなしの状態になっている。)

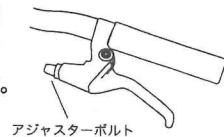
○ブレーキシューがリムの側面にきちんと合っていないくずれている。またはタイヤに当たってしまっている。

○ブレーキシューが摩耗してしまい溝の残りが1mm以下になっている場合。

○ブレーキの効き具合が悪くなっている場合。

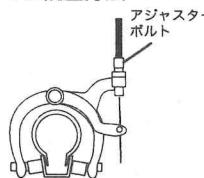
### ●ワイヤー式ブレーキの調整

○ブレーキレバーでの調整方法  
ブレーキレバーにアジャスター式調整ボルトが付いているときはボルトで調整ができます。



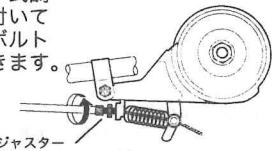
### ○キャリパー・ブレーキでの調整方法

キャリパー・ブレーキにアジャスター式調整ボルトが付いているときはボルトで調整ができます。



### ○バンド・ブレーキでの調整方法

バンド・ブレーキにアジャスター式調整ボルトが付いているときはボルトで調整ができます。



## 6、各部の調整方法

### ●内装変速、外装変速の調整

○内装変速、外装変速は調整がむずかしいために調整をまちがえると正常に変速をしなくなったり、チェーンがはずれて破損を起こすおそれがあるために販売店に依頼してください。

**警告** チェーンが外れたり、円滑に変速ができないときは、転倒などの危険がありますので調整が必要です。必ず販売店にご依頼ください。

### ●タイヤの調整

○W/O タイヤ  
ビードワイヤーがリムの全長より短く、その張力でタイヤを固定するタイプ。



○H/E タイヤ  
ビードフックというひっかけりでタイヤを固定するタイプ。



**強制** **警告** トレッドパターンの溝の深さがなくなったものや、傷、割れ、亀裂等のある場合は事故につながるおそれがありますのですぐに交換してください。

### ○700C タイヤの取扱い。

700X25~28C のタイヤで通学、通勤等の使用において注意が必要です。下記の条件をご理解の上、ご使用ください。

積載重量：前キャリア最大積載重量 2kg。  
後キャリア 4kg。

空気圧：標準空気圧 6~8kgf/c m<sup>3</sup>

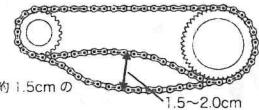
○タイヤバルブの形式と空気の入れ方。  
ご使用自転車のバルブの種類をご確認ください。バルブには"英式"、"米式"、"仏式"、とあります。また、ポンプの口金形式はメーカーによって異なりますので詳しくは販売店にご相談ください。

○タイヤの空気圧について。  
タイヤの空気圧が少ないと、接地面が広くなってしまって走行抵抗が大きくなるほかパンクやタイヤ、リムの損傷の原因になります。タイヤに表示している空気圧の範囲内でご使用ください。

$$[1\text{KPa} = 0.01\text{kgf/c m}^3 = 0.145\text{PSI}]$$

### ●チェーンの調整

○外装変速がついていない車種でチェーンの張りは図のような遊びが必要です。張りすぎたり、たるみすぎたら調整が必要です。販売店にご相談ください。

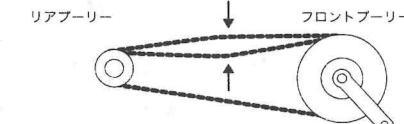


※チェーンの中央部で約1.5cmの遊びがあること。

**警告** チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンがはずれるおそれがあります。チェーンがはずれて転倒、ケガをするおそれがあります。

### ●ベルト車の調整

○ベルト車は、操作感がスムーズな上、油を必要とせずチェーンに比べて伸びが少なくメンテナンスの手間のいらない新しい駆動方式です。ベルトは下図のような遊びが必要です。張りすぎたり、たるみすぎたら調整が必要です。販売店にご相談ください。



※ベルトの中央部で約1.5~2.0cmの遊びがあること。

**警告** ベルトは通常の使用で切れることはありませんが、鋭利なもので傷つくと切れことがありますので日常の点検をお願いします。

**警告** ベルトは注油する必要はありません。油が付着し、衣類を汚すおそれがあるときは乾いた布又は水に浸して固くしぼった布で拭き取ってください。シンナーやガソリン、アルコールのような有機溶媒等は使用しないください。

**警告** ベルトは消耗品です。定期点検や整備をからならず行ってください。もし異常が発見されたら販売店にご相談ください。

## 7. 正しい取り扱い

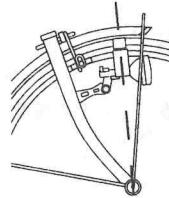
### ●ランプ類の取り扱い

- ランプ類は走行の安全上正しい取り扱いが必要です。ここでの説明は一般的な発電ランプについてになります。電池式ライトの場合、電池がなくなりしない新しいものと交換してください。特殊なランプを使用している車種については販売店にお問い合わせください。

**!** 夜間及び暗い所を走行するときには、必ずランプを装備し、点灯することが強制法律で定められています。

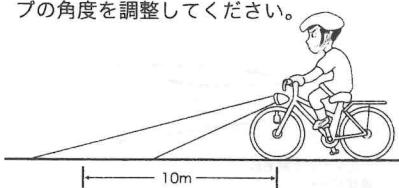
### ●ダイナモの位置

- ダイナモの中心線延長がハブの中心にあっていいか確認してください。取付けがゆるんでダイナモが前に傾いた状態での走行は車輪に挟まれるおそれがあり危険です。販売店にご相談ください。



### ●照射角度

- 自転車の前方10m位を照らすようにランプの角度を調整してください。



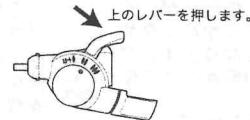
### ●変速機の取り扱いについて。

- 内装3段変速の取り扱い。(ピアノタッチの1-2-3 チェンジ)  
後ハブ内に変速機を組んだ内装式3段変速機です。

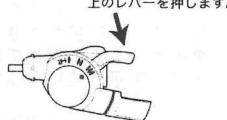
- スタートするとき等ペダルが重く感じるときには下のレバーを押してシフトレバー位置をスタートにしてください。



- 軽い荷物を積んだときや平坦な道などは上のシフトレバーを押してシフトレバー位置をIIにしてください。



- 追い風やペダリングに余裕のあるときは上のシフトレバーを押してシフトレバー位置をIIIにしてください。



**警告** IIIからII、IIからスタートに変速操作するときには、ペダルの踏力を弱くするか、回転を止めるかして行ってください。足を滑らせる等の危険があります。

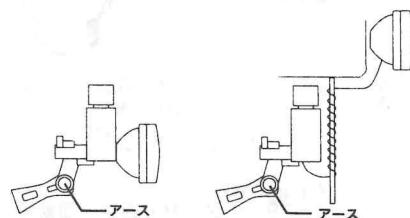
## 7. 正しい取り扱い

### ●起倒レバーを倒し、ダイナモを駆動状態にしたとき。

- タイヤドライブの場合  
ローラーの中心がタイヤに接触しているか確認してください。
- リムドライブの場合  
ローラーの先端がリムに接触し、タイヤには、接触していないことを確認してください。



- ランプ及び尾灯が点灯しないとき
- ダイナモは正常に回転しているか。
- コードの接続は完全か。
- アースは完全か。
- 電球は切れていないか。
- 電球と接触板の接触はよいか。
- 電球は正しいボルト、ワットか。



- 電球の取り替え
- 電球を取り替える時は同じ仕様の電球をご使用ください。なお、不明の場合は販売店にお問い合わせください。

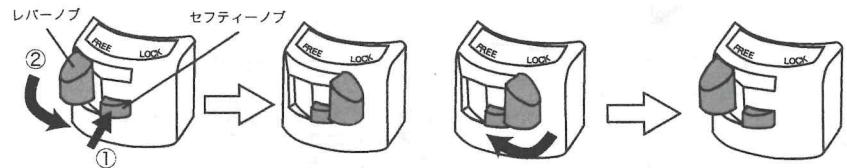
### ●ハンドルストッパーの取り扱い。

- ハンドルストッパーは駐輪時、ハンドルがふらつくのを防止し、ハンドルを固定するものです。

### ○固定方法

- ハンドルがまっすぐの状態でセフティーノブを押しながら、FREE位置表示にあるレバーノブをLOCK表示位置まで動かしてください。この状態でハンドルを無理に回そうとすると、警告音が出てハンドルは回ります。

- 駐輪時はレバーノブを「LOCK」にセット ●乗車時はレバーノブを「FREE」にセット



**!** 走行するときは必ずLOCKを解除してください。  
**強制**

### ●児童車の取り扱いについて。

- 小さなお子さまが自転車に乗る場合は、必ず保護者の方が乗る前に点検をしてあげてください。又、発育途上で体力や判断力も未熟ですので次の要項を保護者の方がお子さまに注意するようわかるまで教えてあげてください。



1. お子さまが児童車をご使用になるときは保護者の方が、取扱い説明書を必ず読んで、正しい乗り方をよく指導してください。

2. 体に合わない自転車はご使用にならないでください。

3. ブレーキに手が届いているかどうか。又、ブレーキは左右同時にかけられるようにかけ方がわかるまで教えてあげてください。

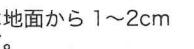
4. 下り坂ではブレーキが効かないことがありますので、スピードを安全な状態まで落として走行できるようご指導ください。

5. 駐車している車の後などで遊ぶと大変危険ですので、遊ぶときや練習をする時は公園や広場などの安全な場所で乗るようしてください。

6. 交通ルールや標識の見方については、保護者の方が指導し、教えてあげてください。

### ●補助車輪について。

- お子さまが補助車付自転車に乗られる場合は、自転車本体に補助車がしっかりと固定されているガタつきがないか確認の上乗車をさせてください。



- 又、補助車輪は地面は地面から1~2cm浮いた状態が正常です。

- 又、乗り馴れてきましたら補助車輪を取り外してスタンドに替えてあげてください。

- ブザー（警報器）の取り扱い。
- ブザー（警報器）は、安全のためにいつの正常に鳴るようにしておいてください。ブザースイッチボタンを押した時に、音が小さくなったり、鳴らなくなったりしたときには乾電池を取替えてください。ブザーによって乾電池や交換の方法が異なりますので販売店にご相談ください。

### ●折りたたみ自転車の取り扱いについて。

- 折りたたみ自転車につきましては、現品に取扱い上の注意事項が添付されていますので、よく読んでからご使用ください。

## 7. 正しい取り扱い

### ●変速機の取り扱いについて。

#### ○外装多段変速の取り扱い。

変速機（ディレーラー）は、坂道や風向きなどの走行条件の変化に応じてギア比を変え、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを少なくする装置です。変速レバーで後変速機及び前変速機を作動させ、チェーンの掛るギア位置を変えてギア比を変えます。この取扱い説明書は一般的な変速機について説明しています。特殊な変速機使用車種については、各変速機の専用説明書をとくお読みいただき正しい取扱いをお願いいたします。

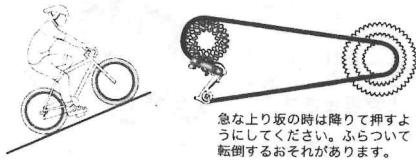
#### ○平地を走る時。



**警告** ペダルの踏出し時は変速しないでください。変速ミスが起き、ふらついて転倒したり、変速機の故障の原因になります。

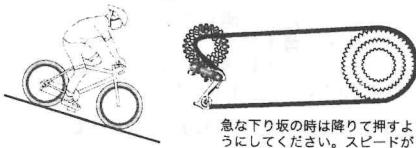
**警告** 外装変速機の変速は必ず正回転でペダリングしながら1段づつ変速操作をしてください。

#### ○上り坂を走る時。（ペダリングが重いとき）



**警告** 坡の手前で早めに変速操作をしてください。（坡の途中では変速がしにくく、無理に変速をしようするとチェーンがはずれて転倒、ケガをすることがあります。）

#### ○下り坂を走る時。（ペダリングが軽いとき）



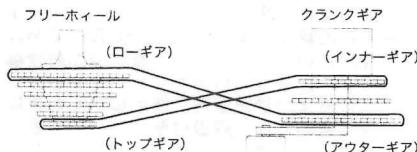
**警告** 下っているときは後ブレーキをかけながらスピードが出すぎないようにコントロールしてください。

**禁止** 急な上り坂や下り坂では自転車から降りて押してください。ふらついたらスピードが過ぎて危険です。

**禁止** ペダルを止めたまま、または逆回転をさせながら変速すると変速機やチェーンを痛め、故障の原因になります。

**禁止** ペダルを強く踏みながら変速したり、一気に2段以上の変速をしないでください。チェーンが外れたり、ペダルと足の回転が合わずに転倒するおそれがあります。

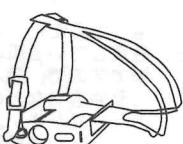
**警告** 下図のようにチェーンが斜めになる使用的の組合せはチェーンや変速機に無理がかかり故障やケガの原因になります。



### ●トーカリップの取り扱い注意。

○車種により、ペダルにトーカリップを装着できますが、お子さまや初心者の方は、とりつけをおやめください。

トーカリップはペダルの上の足位置が確実に決まり、踏む力の他に引き上げの脚力も使えるサイクリングや高速走行に有効な部品ですが、誤った扱いをしますと危険ですので十分に注意してください。



## 7. 正しい取り扱い

### ●ドロップハンドルの使い方。

○ドロップハンドルは高速走行や長距離のサイクリングに適したハンドルです。走行条件により握る位置を変えることで疲労を最小限に抑える事ができます。



1、平地で、舗装された道をゆっくりと走行する時には、軽くハンドルの上を握ってください。



2、少し道が悪かったり、ゆるい上り坂、又は、15~20kmくらいの速度で走行をする時はハンドルの横を握ってください。



3、20km以上速度で走行するときや急な坂や向かい風の時にはブレーキブラケット部分を握ってハンドルを引きつけるようにします。

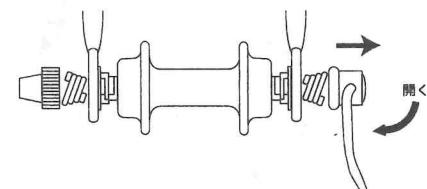


4、高速走行や急な上り坂でペダルを力強く踏む場合はハンドルの下の部分を握ってください。

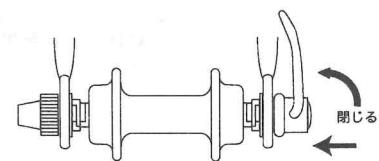
### ●クイックリリーズハブの使い方。

○クイックリリーズの構造。レバーがカム構造となっており、このカムレバーを閉じるとハウジングと調整ナットが内側に動きます。この力によりフレームに車輪を固定しています。（レバーを回して締付けるものではありませんので、ご注意ください。）

カムレバーを開いた状態

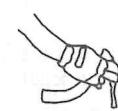


カムレバーを閉じた状態



### ●ブレーキレバーの握り方。

○ドロップハンドルの場合はブレーキレバーの握り方がそれぞれのハンドルポジションで異なります。



上図の1と2のようなポジションで握っている時にはブレーキレバーを上から抑えるようにブレーキレバーをもちます。



上図の2と3のようなポジションで握っている時にはブレーキレバーの下の方を握ってブレーキレバーをもちます。

**警告** お子さまや初心者の方は使い慣れるまで十分に練習をしてください。

**禁止** フレームに車輪を固定するとき、カムレバーを回して締付けないでください。クイックリリーズのカム機構が動かなくなり、車輪の固定が不完全になり非常に危険です。

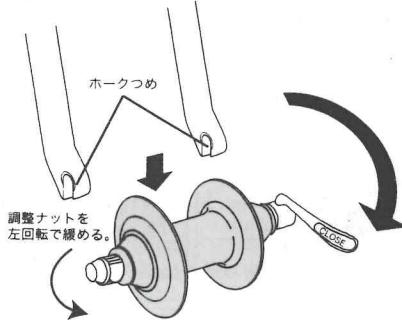
**警告**

クイックリリーズハブは、車輪の脱着には大変便利にできていますが、使用を誤ると非常に危険なものになります。クイックリリーズハブの使用方法をよく理解された上でお取り扱いください。解除している状態では絶対に自転車に乗車しないでください。車輪が外れてしまい危険です。

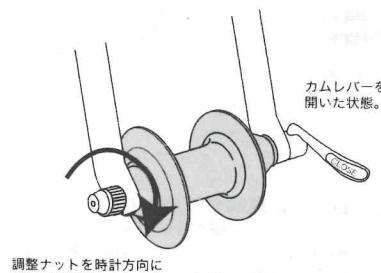
## 7、正しい取り扱い

### ●クイックレリーズの操作。

- ロックナットとクイックレリーズの調整ナット及びハウジングの間に、エンド（フォークつめ）が容易にはいるまで、調整ナットを回してゆるめます。



- カムレバーを開いたままにして、エンド（ホークつめ）とクイックレリーズの調整ナットとハウジングの隙間がなくなるまで調整ナットを回して締めます。なお、調整ナットの調整をするときのカムレバーの位置は、カムレバーを閉めたときの位置を想定しておいて操作をするのが理想です。



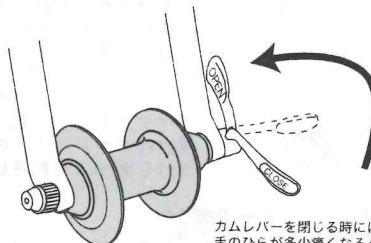
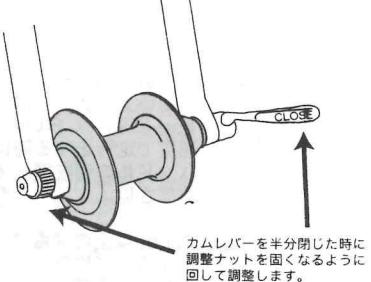
調整ナットを時計方向に回して隙間がなくなるまで回して締めします。

カムレバーを閉めた時の位置を想定しておいてこの位置で操作を行うのが理想的です。

- カムレバーが半分位閉じた時に固くなるように調整ナットで調整し、完全にカムレバーを閉じてください。この時にカムレバーを閉じる時には手のひらが多少痛くなるくらいの力で閉めてください。

押し付ける力はカムレバー先端から 5mm の位置に 160N(16kgf)~220N(22kgf)で締めてください。

カムレバーを半分閉じた時に調整ナットを固くなるように回して調整します。



カムレバーが閉まった状態の位置まで操作したときに確実に固定ができる事が重要です。もし、カムレバーが固すぎたり、緩すぎたて固定できない時には、危険ですから調整ナットを回して再調整してください。

- 車輪の中心線と前ホーク、フレームの中心線を合わせてください。
- カムレバーは前車輪、後車輪とも乗車して左側になるようにしてください。
- カムレバーを固定するときカムレバーの位置は前ホークまたは、バックホークに平行に沿わせてください。

## 8、お手入れと保管について

### ●注油について。

- ご注意

リムやブレーキゴムなど制動面には油を差さないでください。ブレーキが効かなくなります。

- タイヤやゴム部分に油を付けないでください。(ひび割れ等劣化の原因になります。)

- チェーンには油を付けすぎないでください。付けすぎた油は拭き取ってください。埃が付寿命が短くなります。

- ブレーキレバーのワイヤー固定部には注油をお定期的に行ってください。

\*フレームヘッド回転部分、ギヤクランク回転部ハンガー、ハブ、ペダルなどの回転部分にはグリスが詰まっていますので注油は不要です。販売店での定期整備の時にグリスアップを行ってください。

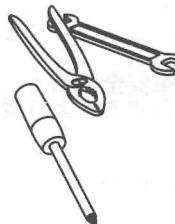
### ●注油箇所。

- ブレーキレバー（前・後） ワイヤーの可動部に注油。
- チェーン クランク回しながら注油。
- ※外装変速付の場合は以下の箇所にも注油をしてください。
- ワイアーリード 循環部に注油。
- リアディレーラー（後変速機） 可動部とブーリに注油。
- フロントディレーラー（前変速機） 可動部に注油。

### ●工具の取り扱いについて。

- 日常の点検等でネジのゆるみなどが生じた場合は、メガネレンチや六角棒レンチなど適正な工具を使って調整をしてください。

※不適正な工具を使用すると十分な締付け及び調整ができなくなることがあります。



### ●標準予備部品について。

- ブレーキワイヤーやブレーキゴムはお買い上げ店に準備したものがありますので、自転車を持参の上その自転車に適合したものを取り替えて修理をしてください。
- タイヤ、チューブについてはサイズをご指定の上お買い求めください。
- その他の予備部品については、お買い上げ店で同一又は、同等品を準備していますのでご相談ください。

## 8. お手入れと保管について

### ●お手入れと保管（安全と品質保持の為に）

#### ○日常のお手入れ

乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。

#### ○雨など水にぬれたときは、

よく乾燥させた後に、注油をしてください。注油をする箇所は『注油について』を参照してください。

#### ○塗装部（フレーム等）

乾いた布でよく拭き、ワックスをかけてください。車用ワックスを使用する場合はワックスの取扱い説明書をよく読んでからご使用ください。

#### ○メッキ部（ハブ、前後変速機等）

乾いた布等でよく拭いた後に、「サビ止め油」または「機械油」でふき、余分な油をふきとってください。

#### ○さびやすい場所に置くとき（浄化槽、海岸付近、湿気の多いところ。）

お手入れの回数を増やしてください。

### ●ご注意

#### ○シンナーなどの有機溶媒は使用しないでください。

#### ○回転部分（ギア、車輪、チェーン）には手を触れないでください。

#### ○サドル、リム、ニギリ、ブレーキレバーにはワックスをかけないでください。

### ●駐輪時の注意

○駐輪禁止の場所や歩行者の通行傷害となる場所に駐輪や放置をしないでください。

### ●お知らせ

○軽合金リムは、ブレーキゴムとの接触により汚れる場合がありますが、性能には影響がありません。

### ●日常の保管

#### ○雨のかからない乾燥した場所に保管してください。

#### ○雨のかかる所では市販の「サイクルカバー」を使用してください。

#### ○盗難防止のために必ずカギをかけて保管してください。

※長期保管後再使用をされる場合は、販売店にて点検及び整備をしてからご使用ください。この点検及び整備は有料になります。

#### ※点検整備のお願い

なお、点検・整備は販売店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）もしくは同等の技術を有する人より受けてください。（有料）

### ●屋内の保管

○家中で保管をする際、床面の上に置いたり、壁面などに立てかけるなどする場合は、自転車のタイヤが直接床面や壁面に触れないようにしてください。直接タイヤが触れると、床面や壁面などが汚れてしまいます。

## 8. お手入れと保管について

### ●こんなときどうするか

#### ○転倒したら

前ホーク・ハンドルが変形することがあります。自転車を横から見て調べてください。

ハンドル、ブレーキレバー、ペダル、変速機が地面とぶつかり傷がつきます。特にハンドル、ブレーキレバーの変形や破損に注意してください。

#### ○パンクしたら

パンクしたまま乗車をつづけると、リムやタイヤチューブを破損させます。必ず降りて自転車を押しください。また、パンクをしたら自転車販売店で修理してください。

### ●パンクの原因

※クギ、ガラス破片などを踏んだとき。

※道路の穴に落ちたり、段差などに乗り上げたとき。

※空気圧が不足していたとき。

※注意深い使用で避けられるものです。

### ○交通事故のとき

万一交通事故を起こした時に場合は、相手が歩行者、自転車、自動車を問わず応急処置のあとすみやかに警察に通報してください。事故処理などの一切は、警察官の指示に従ってください。

### ○ブレーキの故障やブレーキワイヤーが切れたとき

ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず、降りて押してください。近くの自転車販売店で修理してください。

### ○異常を感じたとき

日常点検及び走行中に異状を感じたときには、すみやかに自転車販売店で点検整備をお受けください。

### ●自転車の廃棄について

自転車を廃棄する時は、お住まいの市町村で決められたルールに従って適切に処分してください。決して駅前などに放置しないようにしてください。

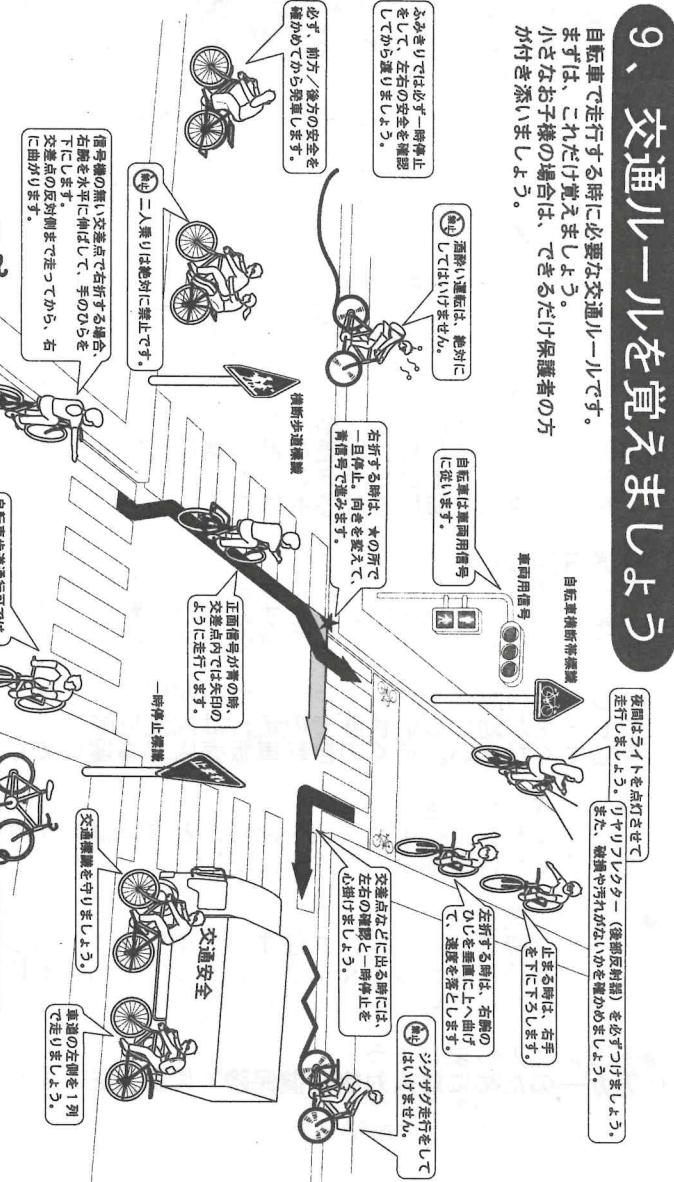
### ●保険に加入しましょう

万が一のために対人対物賠償保険等に加入をしましょう。

お預り後2ヶ月以内に第1回目を、2回目からはお車の1年後ごとに実施して下さい。なお、点検整備はお車のみに施設店に依頼される事となります。(有料)

定期点検・整備チェックリスト	2ヶ月以内	1年目点検	2年目点検	3年目点検	4年目点検	5年目点検	6年目点検	7年目点検
点検項目	点検							
1 車体サイドバイサイドの本体に合っているか								
●サドルにまだつけて足の接地を確認、またサドルの固定を確認								
●ハンドルの真さばきは適正か、また路面は滑走が困難されているかを確認								
2 ●乗る人の姿勢が多少前に傾くように、サドルの前後の位置が調整されているかを確認								
※特に1～2月は、幼児・お子さまにご留意下さい								
3 フレームやロッド・フォークの、変型や変形の有無を確認								
4 ハンドルやハンドルガード・小物の力・形状の有無を確認								
5 ドロヨケハーツの取付状態を確認								
6 キャリパー(停台)は片寄っていないか、またしっかりと取り付けであるか								
7 スタンドの取り付けと作動の確認								
8 タイヤの空気の状態は適正か、及びタイヤの磨耗の状態を確認								
9 ヘダルとランクの取付けが直角になっているかを確認								
10 クラブコロビウムがないか、チャクラが止まらないかを確認								
11 ベダルはまらかに回転するかを確認								
12 車輪の張り・スポークのゆみ・輪部のガタの有無を確認								
13 ブレーキゴム類・シュー・パッド・ラニンガなどの摩耗状態を確認								
14 レバーの制動力が正常で、前後のブレーキが良く効くかを確認								
15 チーンのゆみ・張り具合を確認								
16 ナイフ(ダイナモ)は点灯するか、ネジの締付けなどを確認								
17 リフレクターの破損・汚れの有無を確認								
18 ベルの鳴き具合、鍵などの有無を確認								
19 ホバードの取付けと、施錠装置作動の確認								
20 施錠は正常に動作するか、またチーンが外れないかを確認								
21 フリホールドの回転と走行の状態を確認								
22 チェーンカーブの摩耗の無無と、かけ糸の状態を確認								
定期点検・整備を実施した販売元ならびに年月日	年 月 日							

## 定期点検・整備を実施した販売元ならびに年月日



## 品質保証規定

### ■保証の適応除外

以下に示すものに起因する故障は、保証修理の対象となりません。（使用者負担）

ア). 使用者による、使用上の不注意によるもの。

イ). 衝突・転倒・道路の段差などの乗り上げ、または溝などに落ちて生じたもの。

ウ). 法令の違反行為によって生じたもの。（最大積載量オーバー、二人乗りなど）

エ). 保守・整備の不備、またはその間違いによって生じたもの。

オ). 当社が指定している＜定期点検調整＞を、実施しなかった場合。

カ). 使用者が構造・機能を改造、または変更した為に生じたもの。

キ). 酷使、または一般に自転車が走行しない場所での走行（道の無い山岳地や、道の無い土手の傾斜面など）により生じたもの。

ク). レンタル自転車などの、不特定多数で使用される場合。

ケ). 地震・落雷・火災・水害・公害、その他人災・天災・地変によって生じたもの。

コ). 手入れ不十分・保管場所の不備、及び経時変化により生じた塗装面・メッキ面・その他これに類する不具合・及びプラスティック部品などの自然退色。

サ). 部品の通常の磨耗、または疲労と認めたもの。

- 転倒、衝突によってフレームの変形や亀裂が生じたもの。
- タイヤ・チューブ・ブレーキゴムなどのゴム類。
- クギ・ピンやガラス、切削くず・鋭利な石ころなどで生じたパンク。
- スポークを不適合な障害物によって曲げたり切ったりしたもの。
- ブレーキワイヤー・変速ワイヤー類の疲労によるもの。
- ブレーキゴム・バンドブレーキライニング・パット類の摩耗したもの。
- 小ねじ及びナット類の紛失。
- サドルを転倒や人災によって切られて傷つけられたりしたもの。
- 使用後チェーンがはずれたり変速機が不正確な作動するもの。
- チェーンケース及びどろよけ等に転倒、衝突によって、傷、変形、又は異質音が生じたもの。

シ). 一般に＜機能上＞の影響の無い、感覚的現象（音、振動）。

ス). 本保証書に示す条件以外の費用など。

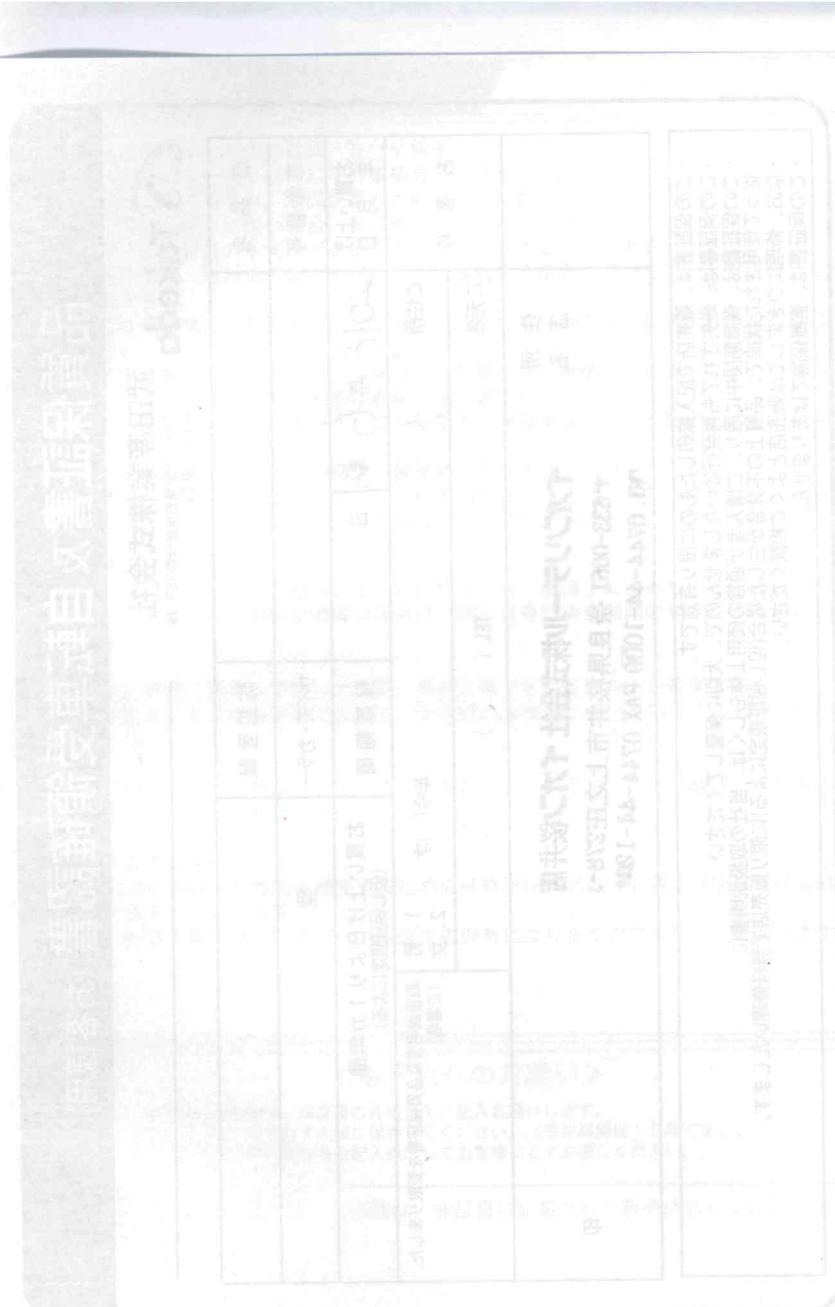
セ). この保証書は盗難保険ではありません。

盗難保険、及び防犯登録については販売店にご相談下さい。

### ■保証対象外部品

次に示す部品の交換、修理は1年以内でも使用者負担になります。

バスケット、バッグ、ドレスガードなどの付属品、ブレーキワイヤー、変速機用ワイヤー、ワイヤー取付け金具、コード類、ダイナモゴムローラー、乾電池、電装品、電球、レンズ、その他上記＜コ・サ＞の項の磨耗部品や疲労部品、使用者が自分で取り付けた部品。



## 品質保証規定

### ■保証修理を受けるための条件、及び手続き

保証修理を受けるためには、以下の事柄をご了承願います。

- ・保証修理を受ける場合、本保証書と自転車をご持参下さい。
- ・なお、本証の提示が無い場合、保証修理は受けられません。  
さらに、本保証書の字句などを書き換えた場合は無効となります。
- ・ご贈答や転居、及び他の個人や法人などに譲渡する場合については、お買上げ店にご相談下さい。
- ・お買上げ自転車は、初期点検（2ヶ月以内）からその後1年ごとの定期点検を受けて下さい。
- ・この定期点検を受ける際には、自転車と<定期点検・整備チェックリスト>を提示して下さい。（定期点検、調整は有料となります）
- ・この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体ナンバーの刻印があるものに適用されます。
- ・海外に持ち出す場合は、その時点で保証外となります。
- ・保証修理に関するお問い合わせは、自転車のお買上げ店にご相談下さい。
- ・修理に関し出張修理の依頼を受けた時は、出張費を請求する場合があります。

### ■判定基準について

お買い上げいただいた自転車に生じた故障などが、製造上によるものか取扱い上の不注意によるものか、判断が困難な場合は、第三者専門検査機関の判定による場合があります。

この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束するものです。したがいましてこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

保証期間経過後の修理などについてご不明な点は、お買上げ店か相談窓口（品質保証書記載の住所）にご相談下さい。

### □部品の保有期間

保証期間経過後でも性能を維持するための補修機能部品は、お買上げ店または製造業者にて保有しております。

但し、新型が発売された場合は、新型での保有になりますので予めご了承願います。

## <販売店へのお願い>

■品質保証書を発行する際は、保証書の各項目をご記入お願いします。

■(控)は貴社の控えとして必ず大切に保存してください。（保存期間は10年です。）

■(保証書)の販売店名欄に貴社名を記入捺印してお客様に必ずお渡しください。

製品についてのお問い合わせ、ご相談は、保証書に記載された販売店若しくは製造元へご連絡ください。

品質保証書及自転車受領確認書（お客様用）	
 <b>武田産業株式会社</b> <small>〒277-0863 千葉県柏市豊四季339-39 TEL: 04-7141-8501</small>	
商品名	防犯登録
車体番号	サイズ・カラー
お買い上げ年月日	型
2018年6月21日	
お客様	保障期間
ご芳名	お買い上げ日より1カ年間 (但し保証規定による)
住所	年令( )才
	1. 男
	2. 女
	(ご署名) 取扱説明書及品質保証書を受取りました。
印	TEL ( ) -
<b>イオングリーテール株式会社 イオングリーン桜井店</b> <b>〒633-0061奈良県桜井市上之庄278-4</b> <b>TEL. 0744-44-1070 FAX 0744-44-1240</b>	

・この保証書は、販売店で記入捺印したものに限り有効です。  
・この保証書は、紛失されても再発行はいたしませんので、大切に保管してください。  
・この保証書は、保険期間中に限り、ご購入者が通常の使用上体もしくは、当社の取扱説明書に従って使用され、状態で、品質上の不具合が生じた場合(但し保証規定による)に限り販売店で無料修理いたします。  
・なお、修理につきましては販売店とよくご相談ください。  
・この保証書は、盗難保険ではありません。